



東西四大學合唱音樂會

早稻田大學音樂協會グリークラブ 慶應義塾ワグネルソサイエティー  
同志社グリークラブ 關西學院グリークラブ



**BIG FOUR UNIV.  
JOINT CHORUS CONCERT**

21st, 23rd, Sept. 1952

KYOTO OSAKA

**Conducted by**

WASEDA UNIV. MUSICAL ASSOCIATION  
GLEE CLUB **TUBOI, HIDEO**  
KEIO GIZYUKU WAGNER SOCIETY  
**TANAKA, TAKASI**  
DOSHISHA GLEE CLUB  
**TERAMOTO, KAZUICHI**  
KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB  
**SOYAMA, KAZUO**

東西四大學  
合唱交歡音樂會

早稲田大学音楽協会グリークラブ  
慶応義塾ワグネル・ソサイエティー  
同志社グリークラブ  
関西学院グリークラブ

昭和27年9月21日 京都 同志社栄光館  
〃 23日 大阪 産経会館

## GREETING

關西學院長  
今田 恵

これは誠に美しい空前の壯挙であります。それぞれの傳統に輝き、使命に生きる、東西四大学の合唱團が、一堂に会して、声を揃えて歌うとは、何と素晴らしい計画でありましょう。私は先づ此の計画をたてた方々に、心からの感謝と敬意を献げたいと思います。

従来も私等はスポーツを通して、互に切磋琢磨し、親交を深めて参りましたが、今ここに更に一つの藝術の分野において、同じことが行われますことは、廣く我が國の学生生活にとって、極めて重大な意義をもつものであります。

藝術は決して生やさしいものではありません。深い生命の燃焼であります。私等は、茲に四大学の若人の燃ゆる生命にふれる喜びと感激とをもつことを期待しております。

更に、これが現代の社会に投ずるところの光明と、文化の進展に対する貢献は、甚だ大であります。催しそれ自身が既にその使命を果していると思うのですが、更にその成功を通して、参加四大学のみならず、廣く我が國音楽文化の高揚に寄與せらるべきことを信じて、祝意を表する次第であります。

慶應義塾長  
潮田 江次

このたび同志社、関西学院、早稲田、及び慶應義塾、四大学が合唱の交歓演奏会を開催する機会を得た事は慶應義塾長として眞に欣懐に堪えない。

そもそも人間の生活にとって音楽は一つの糧であり、潤いの泉である。しかしながら我國の音楽界をみるに、戦後廣汎の発展をなしたとはいえその普及度は欧米に比し極めて低いものであり、それが國民生活の中に眞に融合したものとなるには、今後一層の努力が必要とされる。ここに東西四つの大学合唱團がその初めての試みとして交歓演奏会を開く事は音楽の普及と発展にも、また大学相互の親睦の爲にも劃期的な意義をもつものである。本交歓演奏会がその期する所の目的を充分に果たされん事を願つて止まない。

同志社總長  
大塚 節治

同志社創立者新島襄先生の言葉にされば、私学存立の意義は、國民教育に対する國民の自主的貢献の實を究らし『独自一己の氣象を發揮し、自治自立の人民を養成』するにあります。

吾國に於ける何れの私学も此の使命達成のため永年努力を重ね、更に近來は私立大学連盟を結んで有誼を厚くし、加えて私学共通の得失問題に付共同対処の實を挙げ、私学発展に資して参りましたが、今日連盟中の四大学学生諸君がお互の余技を通じて交誼を温め、且つ切磋琢磨の功を遂げられることは学校当局者としても喜びにたえません。茲に衷心より盛會を祈ります。

早稲田大學總長  
島田 孝一

このたび東西四大学合同演奏会が開催されるに當つて、祝意を表する機会を得ました事を心から感謝いたします。

戦後のめくまれない環境にありながら、学生の積極的意欲によつて、この種文化活動が澎湃として展り、より高いものへの願望が着々と印せられつつあります事は、諸君が吾國の將來への方途を明確に把握していることの証左と考えて、洵に欣ばしき限りであります。

今日、日本の合唱音楽がこれ程の隆昌を見るに至りました要因は、心の慰いを求むる眞摯な学生諸君が、戦後いち早くその復活を図り、常に学生文化運動の中心として、人の心の和を叫びながら、ひたむきに努力した結晶と思います。

合唱音楽は、宗教、民謡、歌劇と多様なものがあるでしょうが、その様な様式に於ても又いかなる環境にあつても、その豊郁として流れくるハーモニーに接するとき、ほのぼのと心あたたまるものをおぼえると同時に、人間の美へのこよなき憧れと、理想追求の情熱を切実に感じます。

この意味に於て、今回、若人の汚れなき熱と意氣の現れとして開かれるこの合同演奏会に対し、深甚なる賀意を表すと共に、今後のたゆまざる健闘を祈り、將來への大いなる発展を期してやみません。

關東合唱連盟會長  
外山 國彦

音楽を聞くことを喜ぶ人と、演奏することを楽しみにし心の糧とまでよるこぶ人がある。

近年音楽愛好の傾向が世間の各層に多くなつた、随つて音楽でも種々の面が賑かになつた様である。茲で特に青春の学生諸君が合唱に多くの愛着を持つ様になつた事は現代の様な世相の折柄、一人のよるこばしさを感ぜさせる、今回輝かしい歴史を持つ四大学の合唱團が合同演奏を計画されたことは誠に意義深いものがある。お互に精進と鍛練の結果を心ゆくまで発表する或は合同演奏の一致協和を実現することによつて若き者の熱情とその誠意と將來への力強い歩みをさえ示すことと思ふ、精神的に結ばれたこの企が「今日の心」をいつまでも持ちつづけられるならば、この学生の合唱はやがて國民を文化活動へ誘導の大きな力となるであろうことを信ずる。

「継続は力なり」と言うさりとて過ぎて学生たるの本分を忘れ給うな、と致して加えた。この企の榮ある成功を祈りつつ。

# Programme

## エー ル 交 歓

### 第一部

- |                               |            |  |
|-------------------------------|------------|--|
| I 同志社グリークラブ                   | 指揮 寺 本 和 市 |  |
| a. 牡鹿の溪水をしたひて                 |            | C. Gounod                                  |
| b. Kyrie                      |            | A. Gabert                                  |
| c. Beati Mortui               |            | F. Mendelssohn                             |
| II 早稲田大学音楽協会グリークラブ            | 指揮 坪 井 秀 夫 |  |
| a. Weihe des Gesang           |            | W.A. Mozart                                |
| b. 山 の 歌                      |            | ドイツ民謡<br>磯部叔編曲                             |
| c. ふるさとの歌                     |            | F. Mendelssohn                             |
| Lied an die Deutschen in Lyon |            |  |
| III 関西学院グリークラブ                | 指揮 曾 山 一 夫 |  |
| a. Sweet and Low              |            | Barnby                                     |
| b. Shenandoah                 |            | Traditional Chanty<br>M, Bartholomew 編     |
| c. Old Tow Wilson             |            | Kentucky Mountain Song<br>M, Bartholomew 編 |
| IV 慶應義塾ワグネルソサイエティー            | 指揮 田 中 孝   |  |
| 日本歌曲集                         |            |  |
| a. 婆やお家                       |            | 本居長世作曲                                     |
| b. からたちの花                     |            | 山田耕筰作曲<br>林雄一郎編曲                           |
| c. 荒城の月                       |            | 滝康太郎作曲<br>オリオンコール編曲                        |
| d. 此 の 道                      |            | 山田耕筰作曲<br>大川内洗蔵編曲                          |
| e. 中國地方の子守唄                   |            | 山田耕筰作曲<br>大川内洗蔵編曲                          |

休 憩

### 第二部

- |                                       |              |          |
|---------------------------------------|--------------|----------|
| V 早稲田大学音楽協会グリークラブ                     | 指揮 坪 井 秀 夫   |          |
| Negro Spiritual                       |              |          |
| a. Keep in the middle of the road     |              |          |
| b. Nobody knows the trouble I've seen |              |          |
| c. The Battle of Jerico.              |              |          |
| VI 同志社グリークラブ                          | 指揮 寺 本 和 市   |          |
| a. 野 ば ら                              |              | Welner   |
| b. 剣 と 堅 琴                            |              | F. Heger |
| VII 慶應義塾ワグネルソサイエティー                   | 指揮 田 中 孝     |          |
| グリーク合唱曲集                              |              |          |
| a. こどもの唄                              |              | OP 30の2  |
| Kinderlied                            |              |          |
| b. 美はしきトーレ                            |              | OP 30の3  |
| Schön Torö                            | バリトン独唱 喜早 哲  |          |
| c. 陸地求めて                              | バリトン独唱 金井 政幸 |          |
| Landerkenung.                         |              | OP 31    |
| VIII 関西学院グリークラブ                       | 指揮 曾 山 一 夫   |          |
| Negro Spiritual.                      |              |          |
| a. Deep River.                        |              |          |
| b. Humble.                            |              |          |
| c. Couldn't heah nobody pray.         |              |          |
| d. Wade in de Water.                  |              |          |

### 合 同 演 奏

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| 指揮 関西合唱連盟委員長 長井齊先生 |             |
| 1. Ave maria       | J. Arcadelt |
| 2. 愛でし友            | Silcher     |



## 早稲田大學音樂協會グリークラブ

詳らかではないが早稲田大學音樂協會グリークラブはかなり古くからあつた様で、大正の中頃、既にその記録が音樂史上に見られている。戦前もずつとコンクール、その他に活躍し、戦後は新たに結成された早稲田大學音樂協會所屬の合唱團として復活し、第一回関東合唱コンクール大學の部に優勝し、以後毎年、演奏会、放送等に活躍し、コンクールに於ては二位以下に下つたことなく、殊に第四回全日本合唱コンクール學生の部に於て優勝を遂げた。此の年、関西学院グリークラブと非公式で交歓演奏会を開き、これが契機となつて以後毎年交歓会、演奏会を開いている。

一方関東に於ては今回同行した慶應ワグネル・ソサイエティー・コールとは古くから親しく交際している、昨年は此の二校発起して、東京六大學合唱聯盟を結成し、今年六月日比谷公会堂に於て、第一回合同演奏会を開催し多大の感銘を興えた。

現在部員は百数十名を数え、専任指揮者として先輩磯部淑氏をお迎えした所今年五月病にたはれられて以來、學生指揮者坪井秀夫が現在代つてこの任に當つている。

### 曲目解説

#### A. ドイツ民謡集

##### 1. Weihe des Gesang 献歌

W. A. Mozart の歌劇「魔笛」第2幕のChor den Priester僧侶の合唱(原詩: Schikaneder)を無伴奏男声四部合唱に編曲したもので訳詩は津川圭一。

「神よ、我ら声高らかに、貴方をたいえ歌います。さればこの世に、幸をお恵み下さい！」

けいけんな、お祈りの歌である。

##### 2. Wanderlied. 山の歌

原曲は、ゲルマン民謡「流浪の歌」(原詩: J. Kerner)。当早大グリークラブ専任指揮者磯部淑氏が特に作詞、編曲したもの。

尾根走りに、又谷川でのファイヤーに、熱い血汐を湧かす若者達の登山の生活を歌つた曲である。

##### 3. Lied an die Deutschen in Lyon. ふるさとの歌

F. Mendelssohn の数多くの男声合唱曲の一つ、作品番号76の3、(原詩: Stolze)を小泉光が訳詩したもの。故郷を遠く離れた若者が、歌によつて、懐かしく故郷を想出すと云う。望郷の歌である。

#### B. Negro Spiritual

##### 1. Keep in the middle of the road. 中道を歩め

この世に一切の望みを絶たれた黒人達は、神の國、天使のいます、あの世のみが残された唯一つの幸福な世界であると信じ、來世での楽しい生活を夢見て居た。

「遙かに、優しい、天使の呼ぶ声が聞えるじやないか、さあ、行こう、眞直に、わき見をしないで、道草をしないで…… 幸福な天使の國え！」

##### 2. Nobody knows the trouble I've seen 誰も知らぬ悩み

悲惨な奴隷の境遇に閉籠められた黒人達は、望郷、辛苦、圧迫、そして、自由へのあこがれ等、心の悩みを、誰にも打明けず出来得なかつた。そこで、キリストの道を教えられた彼等は、神キリストのみが、この悩みを聞いて下さる唯一つの方であると信じ、朝夕けいけんな祈りをこめて、歌つたのである。

##### 3. The Battle of Jerico. デュエリコの戦い

デュエリコでのヨシヤの勇ましい奪戦の物語(旧約聖書)を歌つたもので、キリストの教を説かれた黒人達の、神に対する祈り、あこがれと共に、遙かに故郷アフリカへの望郷の想をこめた曲である。



## 慶應ワグネル・ソサイエティー

ワグネルが創立されたのは明治三十三年であり今日で五十二年になる。聲樂部が最初の試みとして「ドナウ河の漣」の一節に、新作の歌詞をつけたのである。それが明治三十五年五月であつた。

明治三十九年ワグネル最大の功勞者、大塚淳先生を指導者に頂いた。明治四十一年、二年には速く満洲にまで演奏旅行に行つている。大正年間にワグネルの活動はその頂点に達し外國よりの演奏者の來遊と相俟つて樂壇上に大きな地位を占むるに至つた。大正の末、大塚先生の關係から当時上野の生徒であつた、橋本賢彦氏、木下保氏が來られ御指導下さつた。この頃より昭和初年にかけては正に黄金時代であつた。その時代よりワグネルは三田大ホールより、日比谷公会堂、青年會館に進出し、戦の渦中に捲きこまれる頃に至つても定期演奏会は欠かさずに行われていた。終戦後三田の山の荒廃にもかかわらず、会員は再建の意氣に燃え、傳統に励まされて、昭和二十一年十二月二十三日、帝劇に於て、盛會裡に催された。

### 曲目解説

#### A. グリーク合唱曲集

北欧のショパンと評されるグリーク(1843~1907)には、合唱曲にも秀れたものが残つている。今日演奏する三曲は、いづれも男声合唱の効果の中に、生地ノルウェイの素朴な抒情性と、民族的で強烈なリズムとを強調している。

##### 1. 子供の唄(作品30の2)

西洋の童話といつた感じの曲で、特異なリズムと五度和音の上に、猫と鼠の戯れる姿を描いている。(擬音的取扱の効果も面白い。)

##### 2. 美はしきトール(作品30の3)

「若者が美しい少女トールに愛を捧げようとする。然しトールは天國の王子に招かれる身であつた」という美しい抒情詩でバリトン独唱は、少女と若者の姿を對話的に物語る。

##### 3. 陸地を求めて(作品31)

北洋遙かに陸地を求めてゆくオラーク・トリクフアソンが新しい土地を見出して天國の誕生を神に感謝するという民族的敘事詩である。(原曲は管弦樂と男声合唱の爲に書かれた。)

#### B. 日本歌曲集

##### 1. 婆やお家

有名な合唱曲で年老いた婆やを久しぶりで尋ねる懐かしい氣持を唱う。

##### 2. からたちの花

いつも通りすがりに眺めた垣根の傍のからたちに今、白い花が咲いた。それをめぐる幼い日の懐かしい想ひ出を歌つた曲。尙この編曲は昭和六年、関学グリーとの交歓会にワグネルに譲られたものである。

##### 3. 荒城の月

誰一人として知らぬ者のない曲で、古城の傍らに在つて冷たく澄む月の姿を詠つたものである。

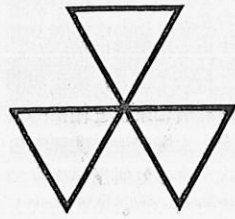
##### 4. 此の道

若き日の思ひ出を、この道、あの雲に托した温かい曲次ぎの曲と共に、ワグネルの先輩、故大川内洗蔵氏の編曲による。

##### 5. 中國地方の子守唄

母の背にゆられて静かに歌われる子守唄は母の愛の響きでもあろう日本的な短い短調の子守唄は悲しみを含んで最弱奏のうちに消え入る様に終る。





## 同志社グリークラブ

同志社グリークラブは創立以来四十八年、現在部員総数八十数名と云う大世帯で校内演奏は勿論、放送に演奏旅行に活躍しグリークラブでの目的たる「同志社精神を戴し、メンバー相互のメンタルハーモニー・カレッツライブの向上」に不断の精進を続けている。

草分時代の明治三十六年頃には単に賛美歌を練習する為の小グループに過ぎなかつたが、それが明治四十四年片桐哲氏がこれを同志社グリークラブと名付け、初代指揮者となり始めて組織化された。所が、この合唱團は宗教本位で聖歌隊的なものだつたので、これに飽きたりない学生が大正二年プリムローズクラブなる合唱團を組織して、一般の合唱音楽の研究に努めるようになった。以後両合唱團は或は共に或は別に発表会、コンクール、演奏旅行等に活躍発展した。その旅行の足跡は國內は勿論、遠く朝鮮、満洲、中興、台湾にまで及んで居る。

昭和十六年、二つの合唱團は合併し同志社大学男声合唱團となり、両方の性格を兼備するようになった。その後戦争の激化と共に音楽活動もままならず一時は練習もとだえ勝らなくなつたが、戦後いちばやく復活し同志社グリークラブとして再発足し今日に到つている。その間毎年の立教グリークラブとの交歓演奏会に、コンクール、放送、発表会に研究と努力を続けて來ている。コンクールに於ける成績に關西に於ては一位三回、二位三回全日本では二位一回と、それに一昨年第一位を得ている

かくの如く半世紀にわたる輝かしい歴史の間に約二百名の先輩を送り今尚音楽界に活躍中の内田榮一、大中寅二、湯浅永年、山口隆俊、宅孝二の諸氏もその中の一人である。

### 曲目解説

#### 牡鹿の溪水をしたひて

旧約聖書の詩篇第四十二篇第一節より取る。この曲はパレストリーナーの影響を非常に受けており、各パートがメロデー本位に自由にゆつくり動く、その中にある生きたリズムとハーモニーは切に神をしたう心がよく表現されている。

#### Beati Mortui

この曲は3拍子 Andante Sostenuto の大別して三つの部分から成立しているものである。先づ靜かに「幸なるかな、今より後主にありて死せるもの。幸なるかな、幸なるかな。」とうたわれ (Cdur~Amoll) 次に f に出て「御霊も言い給ふ彼等は勞役を止めて休まん、その業これに隨うなり」と高らかに唱う (Fdur~Amoll~Gdur) そして再び始めのテーマにもどり「幸なるかな…」と各パートが自由に動きつつ靜かに終る (Cdur)、この曲は目の廻る様な轉調の中で、しかも「冷靜であり傳統を重んじた曲風」は何となく私達に喜びを與えてくれる。

#### 剣と豎琴

中世紀のドイツには諸侯は必ず一人の歌人を召しかかえると云う勇ましくも美しいしきたりがあつた。この曲は Emoll の4拍子重々しい調へによつて始まり宣叙調で「二つの棺が並べて葬られてある」という「その一つは武勇の名に轟く霸王の棺であり、今一つには王がこよなく愛でた歌人が豎琴を抱いたまま葬られている」と述べる。突如、曲は Amoll 3拍子によつて烈しい戦が描かれる、王の兵は強く、敵の皆は破れ、勝鬨は天地をゆるがす。戦終り王の劍は御手にあつて四方に君臨し (Emoll 4拍子) 歌人は豎琴を弾いて平和を讃える (E dur)。

## 關西學院グリークラブ

明治三十二年、我が國最古のグリークラブが原田の森に孤々の声を上げた。爾來五十二年我が國合唱界に古い傳統と歴史を持ち続けている。

誕生当初には山田耕筈先生等活躍され、当時の事は氏の近著「若き日の狂想曲」に書かれてある。その後津川圭一先生、由木康先生等が一つの黄金時代を作られた。原田の森より上ヶ原台地に居を移した頃、作曲家大沢壽人先生が出られ、昭和八年には林雄一郎先生の棒が日比谷に旗を掲ぎ、ここに八、九、十年三年連続全國一の偉業をなし、空前の黄金時代が記録された。軍靴の音が上ヶ原にも響き、部員も学業半ばにして次々に学院を離れて行つたがその間も練習は一度も絶えることなく続けられた。國敗れ平和が再び訪れ、いち早く学院に返つた部員が部の再建に努力され、昭和二十三年第一回全國コンクールより回を重ねること四度、全國制覇の榮冠を持続けている。

現在メンバーは約七十名、常に学生團體としてたがいに切磋琢磨し、メンタルハーモニーをモットーとして絶えず、技術の向上を図り、精進を重ねて居る。

### 曲目解説

#### 1. Sweet and Low

Tennyson の美しい詩に作曲したもので、全体を流れる2拍子のリズムが父を待つ窓辺、母の子供へのやさしい愛情を良く表している。

#### 2. Shenandoah

Shenandoah と云う名の船に寄せる思ひ出を歌っている、傳説の舟歌である。遠い思ひ出からだんだんと自分がその中に入つて行き、我を忘れ興奮するがしかし、それは昔の夢、再び靜かに思ひ出にふける。

#### 3. Old Tom Wilson

ユーモアに満ちた Kentucky の酒唄、一人の男が面白おかしく四つの話をしている。

第一話 寒がりのトムが寝床から首だけ出している所へ、目玉に雪の球を投げつけられる。

第二話 狩に出たこわがりのトムが、せつかく見つけた野豚に却つてどやされ豚に逃げられてしまった。

第三話 Kentucky では幸運にめぐまれ、太つちよの娘つ子にもてた。

第四話 トムは思ひ出の多い St. Louis を去り St. Jo へ行つた。

話と話の間毎に乾杯をして歌ひまくる。

#### Negro Spiritual

##### 1. Deep River

深い河を渡つてヨルダンの向うの岸に私の故郷がある。さあ福音へ、集いの場所へ行こう。彼等の深い悩みから心の平安を求める氣持をよく表わしている。

##### 2. Humble

旧約聖書、ヨナの物語、謙遜な氣持になつて神を礼拝しようと云う事を云つている。

##### 3. Couldn't heah nobody Pray

「私は誰が訴るのも聞かなかつた」彼らの即興をよく表わしているコーラスの歌詞はソロの歌詞とは別に意味上の深い関係はない。只即興的に聖書の文句とか感じるまゝを表わしたものである。

##### 4. Wade in de Water

「水の中を進んで行こう、神様は水をさわがせ給ふ」短調の独特のリズムは、その單純なメロデイの中に我々に訴える様な氣持を與える。

